

図書館は、大学の学術・研究活動の拠点として、本学の8学部・1短大・9研究科・1専門職大学院の教育及び研究に必要な図書・雑誌等の学術資料を、各教学主体とともに精力的に選書・収集した。また、データベース（電子ジャーナルを含む）の充実にも力を注ぎ、これら資料を利用者が効率的・効果的に活用できるように、各種説明会及び講習会を実施した。また学術機関リポジトリの継続的な運用に努め、貴重コレクションの充実・整理を促進した。その他、本学が所蔵する図書や学術資料を、定期的な展覧によって大学関係者のみならず多くの一般市民に公開した。

特に具体化が急がれている事項（①図書館における学習支援機能の充実、②外部データベースの効果的・効率的な導入）については、①学習空間の整備とともに、「グループ学習エリア開設記念事業」を積極的に推進し、②「基幹的外部データベース委員会」を図書委員会のもとに立ち上げて継続的に課題を検討する体制を構築した。

1 図書・学術情報を活用した教育・学習支援

●ラーニングコモンズ構想の具体化と試行

4月から開設された深草図書館グループ学習エリアを中心に、図書館の学習支援機能充実につながる講座・講演会、「私のお薦め本コンテスト」等の諸事業を試行的に実施した。瀬田図書館では、ライティングセンターとの協働やラ

イブラリーサポートスタッフの導入を試みた。

●蔵書構成の充実

「図書収書計画」に基づいた図書館員による選書を中心に深草図書館では学生スタッフによる学習用図書（基本図書）の選書、深草・大宮の各図書館では学生による選書ツアーを実施した。また、学生からの「希望図書」、教職員からの「推薦図書」制度を活用することで学習用図書の充実を図った。

●利用者教育の充実

学部生や大学院生を対象に、オンラインデータベースを活用した図書・雑誌・論文・新聞記事等の基本的な調べ方や、レポート・論文作成・企業情報収集のための情報検索方法について、講習会を開催した。

●利用者への情報提供

図書館利用ガイド『LIBRARY GUIDE』、図書館広報誌『来・ぶらり』を発行し、HP上でもこれを公開し、図書館活動の広報と利用を促進した。さらに学生スタッフによる『Libレポ』を試行的に発行し、多様な媒体を通じた図書館の活性化を図った。

2 電子ジャーナルや学術データベースの収集

●電子ジャーナルや学術データベースの収集

教育・研究上、基本的かつ汎用的なオンラインデータベース（電子ジャーナルを含む）の収集に努め、質の高い教育・研究支援に貢献した。また新たに「基幹的外部データベース委員会」を設置し、導入・評価・見直しに対応できる体制を整えた。

●図書館所蔵資料のデジタル化・情報発信

貴重資料保存調査委員会の下で、古典籍デジタルアーカイブ研究センターと連携し、資料保存と情報提供を目的に図書館が所蔵する資料（古典籍・貴重書等）のデジタル化の事業を積極的に推進した。

●学術機関リポジトリの運用

本学の学術研究成果を積極的に電子化し、広くインターネット上に公開した。また、広範な利用者に対応した見やすいWebページづくりを推進するとともに、リポジトリシステムのさらなる充実のため「学術機関リポジトリ運用要項」を制定した。

●貴重コレクションの充実、整理

「長尾文庫」をはじめとした本学が所蔵する貴重コレクションの充実を継続的に図った。また貴重書データベース等の整備を図り、内外の教育・研究へのさらなる利用を促進した。

3 図書・学術情報利用環境の整備

●資料保存環境の調査・整備

各館書庫の温湿度計測・害虫トラップ調査・書庫清掃を継続的に実施するとともに、カビ害・虫害が確認された図書については、計画的に燻蒸とクリーニング処理を実施した。また深草図書館貴重書庫の空調設備の更新や、紫光館地下書庫に除湿設備を増強した。

●日曜開館等の実施

利用実態と利用者ニーズならびに開館に係る費用対効果进行を踏まえ、2011年度にならって日曜開館等を実施した。さらに大宮図書館において、2011年度に引き続き年末・年始及び春期休業期に開館及び時間延長を実施し、利用者の満足度向上に努めた。

●適切な資料所蔵スペースの確保検討

深草図書館の資料所蔵スペースについて、2015年度の国際文化学部の深草移転や新深草図書館の建設も見据えて、具体的な方策の検討を重ねた。

4 図書・学術資料の公開と施設の開放

●一般市民を対象とした図書館資料の公開

大宮学舎本館展覧室において、特別展観「近世日本の近境事情」を実施し、本学が所蔵する図書・学術資料を教職員・学生はもとより一般市民にも公開した。また、深草図書館では、所蔵コレクションを中心としたミニ展観を7回実施した。

●滋賀県下の高校生等への図書館開放

大学図書館の地域開放政策の一環として、従来のREC会員等に加え、期間を定めて滋賀県下の高校生に対する瀬田図書館の開放を2011年度と同様に実施した。

●図書館資料のインターネット上での公開

引き続き「古典籍のデジタルアーカイブ化」ならびに「学術機関リポジトリの構築」に努め、各コンテンツをインターネット上で公開して、学術的価値の高い資料や龍谷大学で生成された学術研究成果の社会的還元をおこなった。



図書の蔵書状況および2012年度の図書館利用状況

図書館名	蔵書状況							視聴覚資料の所蔵数(点数)	電子ジャーナル・データベースの種類	2012年度 利用状況		
	図書の冊数(冊)				雑誌の種類					入館者数	館外貸出し	
	内国書	外国書	合計	開架図書(内数)	和雑誌	洋雑誌	合計				冊数	人数
深草図書館 (社会科学研究所を含む)	528,774	352,418	881,192	358,794	4,990	2,675	7,665	62	367,270	84,541	46,629	
大宮図書館	556,968	147,704	704,672	292,597	4,938	528	5,466		111,030	53,286	28,720	
瀬田図書館	257,663	142,551	400,214	366,342	2,065	1,167	3,232		270,522	54,282	29,345	
深草図書館分室	30,862	3,744	34,606	33,628	325	62	387		92,299	1,849	1,130	
計	1,374,267	646,417	2,020,684	1,051,361	12,318	4,432	16,750		52,221	841,121	193,958	105,824